

取組の総括

- 2014年11月、ロボット産業を自動車・航空宇宙産業に次ぐ第3の柱として大きく育てるべく「**あいちロボット産業クラスター推進協議会**」を設立。（設立10年の節目）
- 協議会が核となり、ロボットの開発側と利用側が開発段階から連携し、**新たな技術・製品を創出する取組**を実施。
- **愛知県は日本有数のロボット製造拠点**。約10年で愛知県のロボット製造品出荷額は約2.2倍、事業所数は約1.4倍に。

ロボット活用への期待

- 我が国の総人口は長期の減少過程に入っており、生産年齢人口（15～64歳）は、2070年には約4割減となる見込み。特に**中小企業の人手不足感**は強まっている。
- 少子化・人口減少はもとより、社会構造や経済環境の変化、環境対応など、**重要な社会課題の解決**に対して、**ロボットの活用が有効な手段**になり得る。

ロボット産業を取り巻く現況と展望

製造・物流分野	医療・介護分野	空モビリティ分野	業務用サービスロボット分野
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 日本は、依然として産業用ロボットの「一大生産国」であるが、中国メーカー等が台頭し、シェアは低下傾向。 ▶ 食品製造など、業種により活用が進まない。中小企業での導入も課題。 ▶ 導入の要となるロボットシステムインテグレータ（SIer）の多くが人手不足。 ▷ 協働ロボットの市場拡大、AI連携など活用の幅を広げる技術革新が期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 導入コストや効果の不透明さを理由に、導入に二の足を踏む施設が多い。 ▶ ロボット技術やAI・ICTを活用した福祉用具の開発が進展。 ▷ 要介護認定者等が増加する一方で、介護人材の更なる不足が予想。 ▷ 「ICT化等の技術動向」「自立支援・社会参加の実現」「在宅での利活用」の観点を重視した開発が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 法改正によりドローンのレベル4飛行が解禁。物流や点検への活用が期待。 ▷ 市場は急速に拡大見込み(2022→2026：国内市場約3倍)。中でもドローンサービス市場が拡大。 ▷ サービス提供者、メンテナンス、サプライヤーなど将来の産業化を支える人材が必要 ▷ 空飛ぶクルマの運航開始が視野に。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在は配膳や清掃などの、運用が比較的容易な用途への普及が中心。 ▶ 未活用用途における導入促進に向けてはロボットフレンドリーな環境の実現がカギに。 ▷ 市場は急速に拡大見込み(2023→2030：世界市場約2.3倍)。 ▷ 法改正により、自動配送ロボットの公道走行が解禁。市場急拡大が予測。

目指すべき姿

- **ほぼ全ての産業にて人手不足は喫緊の課題**。生産性向上、新たなサービス・産業の創出、安心・安全な生活基盤の実現など、**社会課題の解決手段としてロボットは注目**。
- **本県は日本有数のロボット製造拠点**であるが、海外メーカーの台頭が脅威。**現場課題を起点とした競争力ある製品開発と、AI連携等の新技術の早期実用化**が必要。
- **制度整備も進む**が、ロボットの活用が進んでいない領域も存在。普及には、**周辺環境や業務プロセスを含めた「ロボットシステム」の観点からの活用モデル確立**が重要に。
- ロボットの基幹産業化と、活用の更なる広がりには、メーカーだけでなく、サプライヤー、機体メンテナンスや、ロボットオペレーターなど、**多様な担い手が必要**に。

ロボット産業拠点形成に向けたロボット開発・生産力の強化（作るあいち）と、本県産業全体を持続可能なものとするロボット活用の拡大（使うあいち）のための施策が不可欠。

【目指すべき姿】
ロボットを「作り」「使う」世界的な先進地へ

目指す姿を実現する4つの方針

<p>① 新たな技術・製品の開発と実用化の支援 継続</p> <p>【パイロット事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいちサービスロボット実用化支援センターの運営〔拡充〕 ・介護・リハビリ支援ロボットの活用促進とニーズ発掘〔拡充〕 ・ドローン等の実証実験場の提供〔継続〕 ・新あいち創造研究開発補助金、「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト〔継続〕 	<p>② 現場課題に立脚した活用モデルの創出と事業化 強化</p> <p>【パイロット事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット未活用領域導入検証補助金による導入促進〔新規〕 ・自動配送ロボットを活用したソリューションモデルの創出〔新規〕 ・大阪・関西万博サービスロボット実証事業への参加〔新規〕 ・あいちモビリティイノベーションプロジェクトの推進〔拡充〕 	<p>③ 「作り」「使う」を担うロボット専門人材の育成 強化</p> <p>【パイロット事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・World Robot Summit 2025を契機とした取組〔新規〕 ・高校生ロボットシステムインテグレーション競技会の全国展開〔拡充〕 ・ドローンエンジニア人材創出に向けた体制整備〔新規〕 	<p>④ 多様な担い手を繋ぐプラットフォームの形成 拡充</p> <p>推進協議会の体制と活動を拡充。</p> <p>【重点分野の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造・物流 ・医療・介護 ・空モビリティ ・業務用サービスロボット <p>【活動拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オープンセッション」の定期開催 ・プロジェクトチーム活動支援 <p>※あいち健康長寿産業クラスター推進協議会を統合し、福祉用具等を支援対象に追加。</p>
---	--	--	---